

第2回研究専門委員会開く

森野和子氏講師に各区会長・副会長41名参加



森野和子講師を中心に意欲的に学ぶ参加者

意欲、可能性引き出す

印象決めるのは非言語

コミュニケーションを活性化しよう

多様な人をつなぐのは話し合い

「平成23年度大阪府地域女性団体協議会（市女性会）研究専門委員会」の第2回目が、9月14日、大阪市立男女共同参画センター中央館（クレオ大阪中央）において開催された。

参加者は前回と同様、各区会長・副会長41名、司会は矢田貝喜佐枝市女性会副会長により行われ、はじめに吉村八重子市女性会会長から「研究専門委員会を前回に引き継ぎグループワーク形式で、森野先生にご指導いただき、この学習効果が女性会の益々の発展と継続につながるよう期待する。皆さんには今回もしっかりと学習内容を理解し、リーダーとして地域の会員の方々に還元し、今後の女性会を育ててほしい」とあいさつがあった。

研修概要

講師は㈱ライフキャリア アデザイン・アンソニー代表取締役・森野和子氏。

〈はじめに〉
 (1) グランドルール（受講の際のお約束ごと）の再確認と名札づくり。
 (2) 講座を受けるにあたって、「自分のめあて」を明確にする。
 (3) ふりかえりとして、前回のグループワークで出た「女性会に対する現状」をキーワードで確認。大きく分けると①高齢化②会員の減少③会費の減少の3点に集約された。今までのやり方で活動できないのであれば、別の方法を考えれば良い。

また現状把握をする一方で、「今後どんな女性会にしたいか」という『やりたい姿』を描く必要がある。現状との間にはギャップがあるかもしれないが、それを埋めるのは当事者である皆さん自身。

自分できなかったとしても、他にできる人がいるはず。それぞれ自分の得意なことを持ち寄って、この会を創ることが大切。そして、その多様な人をつなぐために『話し合い』が不可欠である。

〈まずは「聴く」！〉
 コミュニケーションを活性化しよう！
 (1) コミュニケーションの基礎
 コミュニケーションとは、単に情報を正確かつ効率良く伝達することではなく、お互いに理解を深め、感動を共にし、人と人の心がふれあうことがその本質であり、「自分と相手の意欲、可能性を引き出すこと」である。

「メラビアン」の法則」といわれるコミュニケーションの印象を決める割合がある。見た目・雰囲気等が55%、声38%、言葉の内容7%を占める。つまり非言語93%でコミュニケーションの印象が決まるのである。

またコミュニケーションは、相手が受け止めた分が、コミュニケーションの結果である。何を話



発行所
 大阪市地域女性団体協議会
 大阪市天王寺区上汐5-6-25
 クレオ大阪中央内
 電話 06(6770)2440 番
 編集発行人 吉村八重子

「女性大阪」は
 ★女性の教養と地位の向上のためのものです。
 ★女性の意見発表と交換の広場です。
 ★市女性会のみなさんのものです。

題字は磯村隆文氏
 大阪市女性会ホームページ
<http://www.geocities.jp/shijyoseikai/>

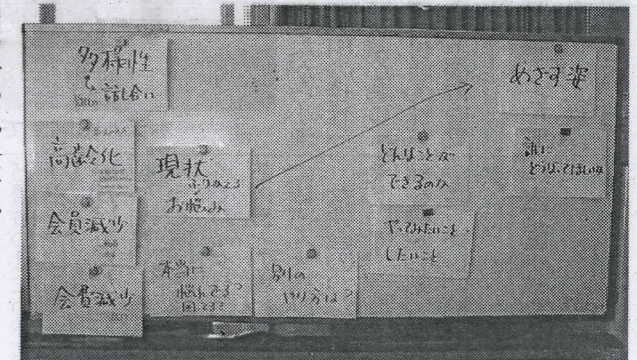
「女性大阪」平成23年10月8日(土)
 その1

したか
なく、ど
う伝わ
たかが
重要に
なっ
てくる。

【ワー
ク】
久 森野
氏の語
話をそ
れで
「かく」
各自が
自分の
聞いた
ように
かいて
みる。

なり、全
く別物
である。
受け止
めた結
果が、
それバ
ラバラ
である
ことが
よくわ
かる。受
け手に
よって
コミュニ
ケーシ
ョンの
結果が
作り出
された
のである。

【ワー
ク】
二人組
のため
には、
まずは
信頼関
係を築
くこと
が大切。
人はお
互いに
共通す
るもの
が多け
れば、
多いほ
ど関係
性は深
く



キーワードで見る女性会活動の「今」

よい質問でよい答引き出す

△質問する▽

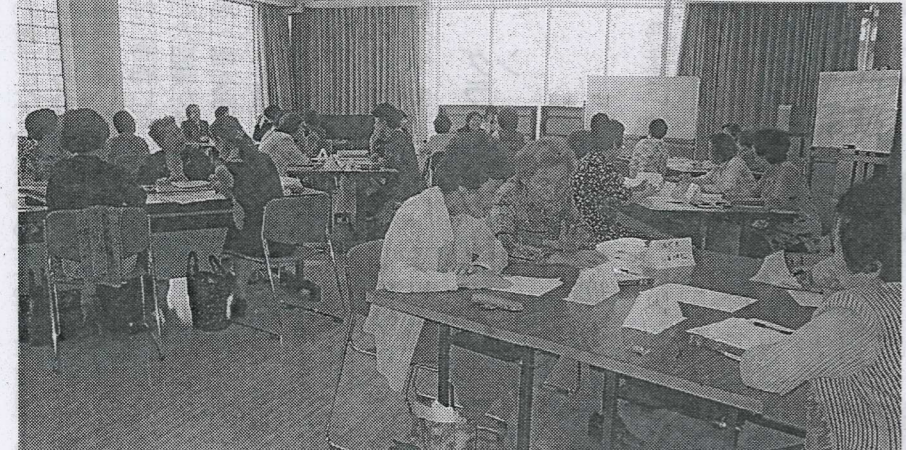
コミュニケーションを円滑にしたり、話し合いを活発化するためには、よい質問でよい答えを引き出すことが大事である。

【ワーク】①「いつ／どこで／誰が／何を」のような6W2Hの質問で、言葉の塊をほぐす質問、②言葉の背景を掴む質問（そのことができた／何が手に入るか／それはどんな価値があるか等）、次の展開が見えるような質問。

二人組になって、上記の質問を使って会話。

【ワーク】

- ③なぜ失敗したかに焦点をあてる質問（何が悪かったか／問題は何か／誰の責任か／誰が悪いのか等）、
- ④どうすれば成功するかに焦点を当てる質問（今から具体的にどういう結果をめざすか／今回の経験から何を学んだことは何か／今回の経験を次回にどう活かせると思



各区から会長・副会長が参加、グループワーク形式で学ぶ

【ワーク】二人組になって、「わざと相手の話を聞かない」「しっかりと聴く」「聴く」を体験し、いかに「聴く」(きいても)

うか等)。

二人組になって、上記の質問を使って会話。研修の中で使った質問フレーズを、日常生活の中でも使ってみる。ことが大切。特に②④の質問は、行き詰った状況を次に展開することが出来る。会のリーダーとしてだけでなく、家族間でも求められていることが多いため。

△ふりかえり▽

今日一日学習して気づいたこと、今後どんなところで使えそうか等、ふ

【ワーク】二人組になって、「わざと相手の話を聞かない」「しっかりと聴く」「聴く」を体験し、いかに「聴く」(きいても)

りかえりをする。

限られた時間で、相手に正しく伝えるためにはどうしたら良いかを意識すること、また要約してわかりやすく相手に伝えることが大切である。今日は1対1のコミュニケーションを学習した。次回からは複数人数での「話し合い」を通じて、前回出た「お悩み」解決をめざす。

以上で第2回市女性会研究専門委員会は定刻通り終了した。次回は10月12日に開催予定。

「女性大阪」平成23年10月8日(土) その2

研修を受講して

地域女性会のなやみとして①高齢化②会員の減少③会費の減少の3点が、以前から話題にされながら、解決できないままだった。森野講師の今回の講義で「今までの方法でできないのなら、別の方法で考えればよい」、また「できるか、できないかは別として、まず当事者である私たちが、ありたい姿を出し合って、自分のできることを持ちよって話し合うことから始めなければならぬ」ということが分かりました。

そのためには相手とコミュニケーションを深めなければなりません。深めるためには聴く(聞くでない)ことが大切です。今日、学習した質問フレーズを日常生活で使い、次回までに復習したいと思います。

◇

なお、「女性大阪9月号(5000号)」第1回研究専門委員会記事は、森野和子講師の高関なく掲載しましたことをお詫びし、1面4段16行目の「エネルギー」は「NLP」に訂正させて頂きま